

平成27年度 県立大学地域貢献研究の研究成果について（ 完子報告・中間報告 ）

研究テーマ	アジアのイグアノドン類の分類学的・古生物地理学的研究 -福井県のイグアノドン類はどこから来たのか-	
研究期間	平成27～28年度	
主たる研究者	【学部・学科】 恐竜学研究所	【職・氏名】 講師・柴田正輝

○研究目的

中国、タイを含めたアジアのイグアノドン類の分類学的研究を行い、福井県のイグアノドン類の進化と拡散について明らかにする。

○ 研究成果

本年度は、福井とタイのイグアノドン類、およびその脳の予察的研究を行い、これらを含めた分類学的研究を行った。

① 福井のイグアノドン類の再検討

福井県勝山市で発見されているイグアノドン類の全ての部位を観察し、分類学的特徴を再検討した。その結果、下顎および腸骨には **2形態**あり、それらは **“華奢型 (Slender-Type)”** と **“がっしり型 (Robust-Type)”** に分けられる (図1)。フクイサウルスとして知られている種は、後者に属し、前者はコシサウルスのような種だと考えられる。予察的に分岐分析を行ったところ、**“がっしり型” (フクイサウルス) は原始的な種類で、ヨーロッパで発見される種類に類似**することがわかった。

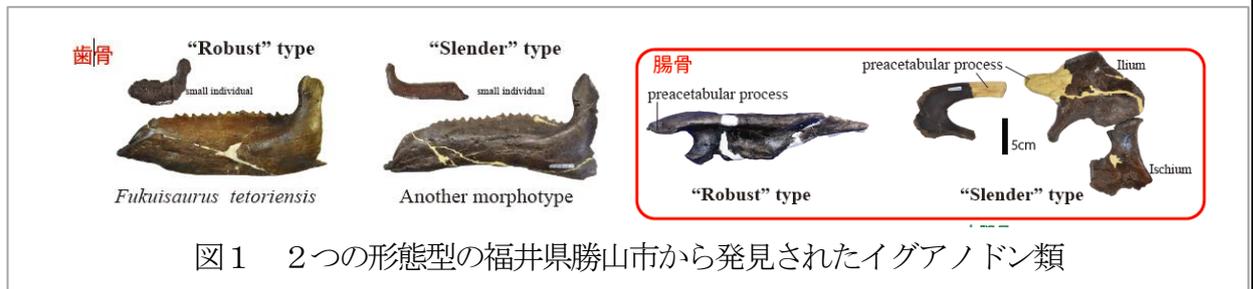


図1 2つの形態型の福井県勝山市から発見されたイグアノドン類

② イグアノドン類の脳について

今年度はタイのイグアノドン類の脳についての分析を行った。絶滅古脊椎動物の脳の形は、脳を格納している部位である脳函内部の雌型から推測されるが、原始的なイグアノドン類については保存状態の良い“脳”はほとんど報告されていない。したがって、本研究では、**原始的なイグアノドン類において他の種類との比較の「基準」**を示すことができた。また本標本は、**大脳が他の近縁種より比較的大きい**。これは、より複雑な社会性を築いていたことを示す可能性がある。

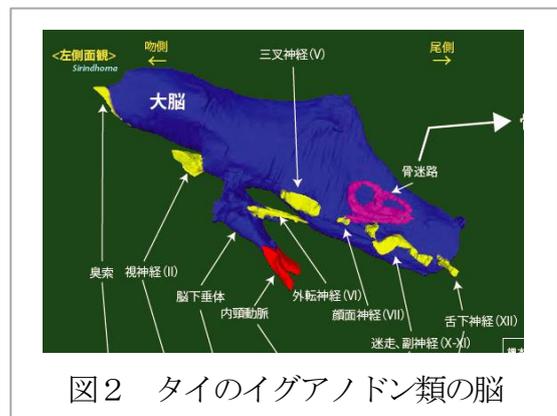
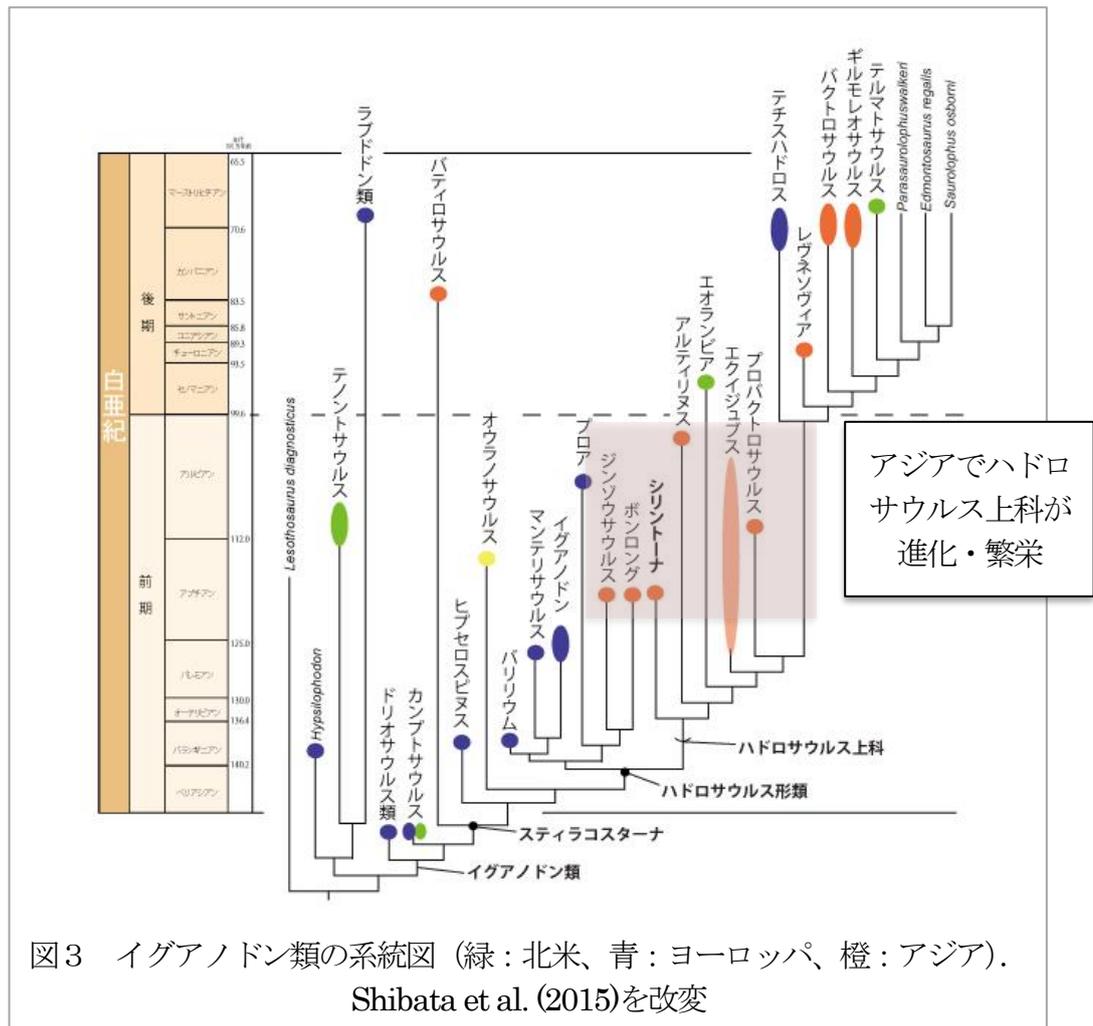


図2 タイのイグアノドン類の脳

③ タイの新種を加えたイグアノドン類の予察的分類学的研究

タイの前期白亜紀コク・クルアト層から発見されたイグアノドン類が新属新種であることがわかり、「シリントーナ・コラーテンシス」と命名した。ハドロサウルス上科に属する全長 6 メートルほどの中型のイグアノドン類で、タイでは3種目となるが、**東南アジアでは最も保存状態の良いイグアノドン類**である。



東南アジア地域の前期白亜紀のイグアノドン類は詳しく知られていなかったが、本発見により、ハドロサウルス上科が広く東南アジアまで広がっていたことを示した。

本年度結果のまとめ

系統図 (図3) からは、前期白亜紀前半までは、イグアノドン類の進化の中心は北米とヨーロッパであったが、**前期白亜紀後半になり、進化したグループ「ハドロサウルス上科」がアジアを中心として進化**したことがわかる。福井のイグアノドン類は、このハドロサウルス上科に属する種類と、それより原始的なフクイサウルスの2種類が混在する興味深い地域であることがわかった。さらに、タイの「シリントーナ」の脳に関する予察的研究からは、その系統学的位置から考えると、**より複雑な社会性 (例えば群れでの生活) などへ適応していったことを示唆**する結果が得られた。

来年度は、本年度の上記の予察的研究を踏まえ、**中国 (特に甘粛省) の同時期のイグアノドン類の分類学的研究**を中心に行い、**東・東南アジアのイグアノドン類の古生物地理学的分布の時代的変遷から福井のイグアノドン類たちの移動**について考察する。また、組織学的研究も継続的に行い、個体成長についても検討する。